教職科目 A

「教育相談論」における教員養成への貢献

教育学部・相模健人

１．授業の基本情報

平成 28 年度より学部改組されたことにより、従来、行っていた「教育相談論」について「チーム学校」などの実践的内容を盛り込んだものとした。この授業内容について学生に尋ねるアンケートを行ったものを報告する。

アンケートは最終回の授業時に行った。登録受講者 195 名の内、最終回に出席した 172 名が回答した。内容は本授業について①「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めるとしたらどんなことを言って薦めますか？」②「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めないとしたらどんなことを言って薦めませんか？」を尋ね、自由記述で回答してもらった。

２．授業評価の内容

①薦める理由

前述の①の回答については「具体的な事例や対処法を学ぶことができる」「今まであまり知らなかったであろう不登校児へのアプローチの方法やスクールカウンセラーの役割について理解することができる」といった事例を通して、不登校やいじめなどの対処法が学べることを上げているものが多かった。事例を通して「チーム学校」の連携手法について紹介しているものが多く、こういった姿勢が学生に評価されると言える。「とても実践的であり、教師になった際に活かせることが多かった。また自分は教師になろうとしているという自覚を持つことができた」といった実践的で教員養成の自覚を持って参加している学生も見られる。

また事例検討などについて討論を多く行っていることから「グループワークがあってわかりやすい」「自分で考える練習が十分にできる」「様々な視野から問題を考えることができるようになる」といった討論を行っていくことで自ら考える姿勢や多様な価値観を知る機会となっていることも評価されている。そのまま「価値観がかわる」「思っている教師よりかは確実に考え方が代わったり広がったりする」と書いている者もおり、ある程度の影響を与えることはできていると考える。「アクティブ・ラーニングができる」との意見もある。

さらに「児童・生徒の話を聞くときの参考になる」といった授業内容を実際に役立てることができるという意見もあり、学生自身が活用していこうとする姿勢が見られる。「本気で先生になりたいならめちゃめちゃ大切な授業です」「学ぶ意欲があればあるほど学びが深くなる」と授業を薦める理由が多く教員養成に必要な授業と学生が考えていることが理解できる。

②薦めない理由

同じく②の回答については「準備してこないと授業に参加できない」「課題が少し多いです」「「レポートが大変」といった授業形式に関する指摘が多い。教員としては必要な形式と考えており、①の薦める理由として同じことを指摘していることから一概に改善しなければならないということではないと考えるが。細かい形式については検討の余地があると考える。

また「教師を目指していない場合はあまり意味がない」「人との関わりが多い授業が苦手だったらすすめない」といった教員志望の熱意や人との関わりが苦手な学生には難しいだろうという意見も多く、この点は授業内での説明がより必要と考える・

3.地域社会を核とした教育と研究のつながり

筆者は WOWW アプローチについて研究を進めている（相模, 2009,2011,2015a,2015b）。昨年度よりスクールカウンセラーの中で行なっている。児童や教員より大きな反響がある。従来より大学の教育相談論の授業内でも行い、その効果について授業内で取り上げることにより教育と研究のつながりを築いている。